



アカデミー生到着 (7月3日)



シーティング・オーデション (7月5日)



街の喧噪を忘れた一夜 (7月9日、大通公園コンサート)



ヤコフ・クライツベルクによるリハーサル (7月11日、札幌芸術の森)



毎年恒例の「市民ロビーコンサート」 (7月14日)



モエレ沼公園ガラスのピラミッドにて (7月9日)



JR札幌駅コンコースにて、多くの通行人が足を止めて演奏に聴き入りました。(7月13日)



細川俊夫とコンポジションコース (7月18日)



ボランティアによる日本文化体験 (7月26日、札幌芸術の森)



モエレ沼公園ガラスのピラミッドにて (7月9日)



アカデミーが地元の中学生と合同で演奏しました。(7月21日、ちえりあホール・札幌市西区)



アカデミーが地元の中学生と合同で演奏しました。(7月21日、ちえりあホール・札幌市西区)



オペラさながらの演技! (7月30日、青少年のための音楽会)



アカデミーが地元の中学生と合同で演奏しました。(7月21日、ちえりあホール・札幌市西区)



第3週からアカデミーの指導にあたったPMFベルリン。(7月21日、PMFベルリン・アンサンブル演奏会)



アカデミーが地元の中学生と合同で演奏しました。(7月21日、ちえりあホール・札幌市西区)



「カルチャーナイト」参加の弦楽四重奏コース演奏会。(7月21日、札幌時計台ホール)



「カルチャーナイト」参加の弦楽四重奏コース演奏会。(7月21日、札幌時計台ホール)



札幌のフィナーレを花火が飾りました。(7月30日、ピクニックコンサート)



PMF、街を駆ける!!
7月の札幌をPMF一色に! 今年は新たに地下鉄車両、参加者用シャトルバスを使った広告が登場しました。あなたは目にしましたか?

- 主催:(財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
- 助成:北海道/札幌市/野村国際文化財団/(財)地域創造/(財)ロームミュージックファンデーション
- грандパートナーズ(特別支援企業):野村證券(株)/松下電器産業(株)/日本航空/トヨタ自動車(株)
- 特別後援:(株)北海道新聞社/(株)日本経済新聞社
- 協賛:北海道電力(株)/(株)北洋銀行/サッポロビール(株)/東日本電信電話(株)/ホクレン農業協同組合連合会/(株)北海道銀行/(株)NTTドコモ北海道/札幌商工会議所/(株)イーレント/北海道放送(株)/(株)ジェイティービー/(株)札幌銀行
- 特別協力:ヤマハ(株)
- 協力:北海道旅客鉄道(株)/つばめ自動車(株)
- 施設協力:(財)札幌市芸術文化財団
- M.(社)企業メセナ協議会助成認定活動

私たちはPMFを応援しています。

NOMURA Panasonic JAL TOYOTA

お問い合わせ・発行
(財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
〒060-0052 札幌市中央区南2条東1丁目1-14 住友生命札幌中央ビル1階
TEL.011-242-2211 FAX.011-242-1687

<http://www.pmf.or.jp>

PMF2006オリジナルTシャツ&2007カレンダープレゼント

- ①PMF2006オリジナルTシャツ (1枚)
- ②PMFオリジナルカレンダー (1部)

※PMFフレンズ会員の皆様には別途カレンダーをお送りします。

以上のセットを、抽選で20名様に差し上げます。ご希望の方は、官製ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、Tシャツのご希望色(白・グレー)・ご希望サイズ(S・M・L・LL)と、PMFへのメッセージをご記入のうえ、下記までご応募ください。

〒060-0052 札幌市中央区南2条東1丁目1-14 住友生命札幌中央ビル1階 (財)PMF組織委員会「PMFニュース・プレゼント係」10月20日(金)消印有効。なお当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。(12月を予定) ※ご応募いただいたハガキは責任を持って管理し、終了後破棄させていただきます。

PMF2007 Preview!

世界のマエストロ、リッカルド・ムーティがPMFに首席指揮者として初登場。シューベルトの「ザ・グレート」をメインとする自らの選曲です。オーディション要項も11月から配布開始。今後のお知らせにご期待ください!

Pacific Music Festival
PMF
NEWS

2006 Sapporo

8月3日、サントリーホールにおけるPMFオーケストラ東京公演をもって、PMF2006はフィナーレを迎えました。多くのファンが訪れた真夏のフェスティバルは、総入場者数49,000人を数え、その歴史に新たなページを刻みました。首席指揮者 **ワレリー・ゲルギエフ**。圧倒的な存在感で、モーツァルト、ストラヴィンスキー、チャイコフスキーの世界を夢幻自在に描き出し、観客を魅了。客演指揮者 **ヤコフ・クライツベルク**。オペラで培った情感豊かな表現で、ドラマチックなワーグナー、ショスタコーヴィチを披露。「トリビュート・トゥ・タケミツ」では、**札幌とPMFオーケストラ・メンバー**の共演が実現し、武満 徹の詩情に満ちた音楽を好演。音楽界を牽引するカリスマ、そして熟達した音楽家たちが織りなした情熱的な指導に、未来をにう若きアカデミー生たちは、かけがえのない経験を得たことでしょう。

PMFを応援してくださったすべてのみなさまに、心から感謝します。そして、PMF2007にもご期待ください。

夏をかけぬけた、ゲルギエフ。



澄みきった夏空と、輝く新緑の札幌に、音楽が響いた1カ月。



20世紀を代表する指揮者、レナード・バーンスタインの遺志を受け、次代を担う世界中の若き音楽家たちを教育するパシフィック・ミュージック・フェスティバル。17回目を迎えた今回も、巨匠と呼ばれる音楽家が、そして世界の一流といわれる奏者が夏の札幌に集い、世界17カ国・地域から選ばれた120人の若手音楽家を育みました。

モーツァルト生誕250年、ショスタコヴィチ生誕100年、武満徹没後10年という節目でもあった今回のPMF。期間中好天に恵まれ、49,000人と昨年よりも多くの方々に足を運んでいただきました。爽やかな初夏の風とともに駆け抜けた充実の27日間を振り返ります。

ファンファーレとともに、華やかに開幕。 PMF2006開会式・記念演奏

PMFウーン教授陣、PMFオーケストラ・メンバーが演奏をおこない、今年は例年にも増して音楽を楽しむ内容に。多くの方がピクニック感覚で訪れました。

ルイス・ピアヴァ指揮によるチャイコフスキー作曲「弦楽セレナーデ」。

武満音楽の神髄を語る。 トリビュート・トゥ・タケミツ(7月12日)

武満徹没後10年を記念して行われたこの演奏会は、札幌交響楽団とPMFオーケストラとの共演も話題に。開演前と休憩時間のトークでは、とっておきのエピソードが紹介されました。



武満浅香夫人と小室等氏によるトーク

細川俊夫の世界。 パシフィック・サウンディング(7月27日)

レジデント・コンポーザー細川俊夫の作品を紹介。和楽器を取り入れた幻想的な音楽世界に、聴衆も引き込まれていきました。コンポジションコース・メンバーの作品も披露。



箏(川村京子)、チェロとアンサンブルによる「相聞歌」

大空の下、思いっきり音楽を楽しむ。 ピクニックコンサート(7月30日)

札幌の最後を飾る恒例のピクニックコンサートは、今年も好天に恵まれ、心地よい音楽が演奏される中、聴衆の皆さんは食べ物や飲み物を片手に思い思いの過ごし方を楽しんでいました。



札幌芸術の森・野外ステージ

心に染み入るストリングスの音色。 PMF弦楽四重奏コース

今年で2年目を迎えた弦楽四重奏コース。会期後半に札幌入りし、東京クワルテットの指導のもと緻密なアンサンブルを作り上げました。教授陣メンバーが加わり五重奏や六重奏を演奏したほか、札幌芸術の森美術館(7月22日)での演奏会も大盛況でした。



森の中のレストラン。 サマーフォレスト・レストラン

2006年限定で札幌芸術の森に開店したサマーフォレスト・レストラン。一般客はもちろん、アカデミー生のレストランとしても利用され、大好評でした。

アカデミー生の食事風景



ゲルギエフとPMF、感動のエピローグ。

クラシック界のカリスマ的存在、ゲルギエフ。PMF2004に続き2回目の登場となった今回、PMFを、音楽を、どう捉えていたのでしょうか。



Valery Gergiev 首席指揮者
ワレリー・ゲルギエフ

ワレリー・ゲルギエフが見たPMF

私は夏に自然の中で行われる音楽祭が好きです。森、湖、美しく透き通った空気...そんな中での演奏会は、都会の喧騒を忘れさせ、人々に至福の心地よさを与えてくれます。豊かな自然、新鮮な空気...北海道の自然条件は自分に合っているようです。私はサントペテルブルクに住んでおり、もちろん都会も好きなのですが、自然の中に身を置き、そこで音楽を奏でることはとても気持ちの良いものです。

PMFへの参加は2回目となります。私も今までにヨーロッパの学生を中心としたユースオーケストラの指導を経験していますが、ここPMFで特に惹かれるのは、アメリカ、アジアを始めとして、世界中から若い音楽家が集まることですね。非常によく組織された音楽祭であることは、2年前に初めて来たときから感じていましたが、本当に楽しい仕事です。今回は全部で5回の演奏会がありますが、それぞれの街でリハーサルを重ね、彼らを成長させていくというのが私の最大の目標です。彼らとできるだけ会話をすることにより、少しでも多く私の経験を伝えることができたいと思います。

今回のプログラムの一つ、ストラヴィンスキーの「ペトルーシカ」は、オーケストラの若い音楽家たちが、自分らしさを音楽で表現するのにふさわしい作品です。長大なチャイコフスキーの交響曲も、それぞれの楽器が実力を発揮できる曲です。とても大きな曲が多い中で対比をなすのがモーツァルトのファゴット協奏曲。今年はモーツァルトが世界中でさかんに演奏されていますが、そのすべてをご披露できないのが残念です。ダニエル・マツカフは、とても美しい音色を聴かせてくれます。

PMFの意義は、ここで学んだ彼らが20年後に音楽家としての黄金時代を迎えられるよう、種をまくことにあります。今後世界中どこで活躍するにせよ、PMFで得た貴重な経験を生かしていくことができれば

いいのです。私には、かつてバーンスタインが、自分に残された時間を後進の音楽家の育成に捧げたいと考えた気持ちがよくわかります。彼が偉大であったのは、そのエネルギーをプロの音楽家ではなく、これから活躍する若い人たちに向けたところだと思います。私も年を重ねるにつれ、自分が受け、積み上げてきたものを、次の世代に伝えていくべきだと考えるようになりました。もちろん、聴衆の皆さんには「音」を通して私のすべてを伝えたいと考えていますが、それとは別に、若い音楽家たちに自分の経験を伝えていくという作業がいかに重要であるかということもわかってほしい、そんなことを考えながら、今回も喜んで札幌に足を運んだのです。

PMFには、世界の音楽祭が学ぶべき要素がたくさんあります。まず、札幌のキタラをはじめ、日本には多くの優れたホールがあります。そしてこれだけの参加者と教授陣。こうした環境の中で、有意義な時間を過ごした若いアカデミー生たちは、このあと故郷に帰り、自分の国にもこうした「文化の拠点」があれば、願はずです。そうした意味で、札幌は世界に向けて大切なことを発信しているといえるでしょう。

今後PMFは、前の年のレベルを上回ろうとするのではなく、今は未熟でも3~4週間の会期中中でぐっと伸びるような才能のある若者を呼ぶことが大切です。彼らは音楽的に非常に成長する時期にあります。すでに十分な経験を積んだ者たちだけではなく、より多くの才能豊かな若者たち、この音楽祭を本当に必要としている若者たちに門戸が開かれ、彼らの才能を開花させることができればよいでしょう。

(2006年7月30日 札幌芸術の森にて)



Voice from Audience	観客の声
教授陣のソロによるモーツァルトは音に透明感があり絶品でした!ショスタコヴィチの重厚な音も圧巻。(40代女性/7月15日、PMFオーケストラ演奏会)	4人が互いに盛り立てあい、主張しあう姿は音楽の理想ではないでしょうか。完成度の高さに感動しました(60代男性/7月20日、東京クワルテット演奏会)

TV Broadcasts	これからのテレビ放送予定
放送日 2006年9月29日(金) 19:30~20:30 NHK総合テレビ(北海道)北海道スペシャル 「受け継がれる“音”の奇跡」 ~国際教育音楽祭の四週間~	放送日 2006年12月2日(土) 0:30~(金曜深夜) NHKBS2 クラシックロイヤルシート 「PMF2006PMFオーケストラ演奏会」